

■孝徳天皇(輕皇子)
こうとくてんのう
..... 596=

第36代天皇。大化改新政治開始期の繋ぎの役割で、急激な改新政治の犠牲者の1人となった。

生年は確かでないが、推古4年の誕生と推定される。父は田村皇子(のちの舒明天皇)の異母兄弟の茅渟王。母は欽明天皇の孫吉備姫王。のちの皇極天皇の同母弟。

..... 605= 9歳 :

第5回遣唐使 614=18歳 :

聖徳太子没・ 622=26歳 :
征新羅軍派遣 623=27歳 :

蘇我馬子没・ 626=30歳 :

推古天皇没・ 628=32歳 :
..... 629=33歳 : 舒明天皇が即位。

唐使伴い帰国 632=36歳 :

高向ら帰国・ 640=44歳 : 小足媛との間に有間皇子をもうける。

..... 641=45歳 : 舒明天皇が死去。

皇極天皇即位 642=46歳 : 舒明の葬儀では弔辞を読む立場にあったが、粟田細目が代わって務める。姉皇極天皇即位。

蘇我入鹿の乱 643=47歳 : 蘇我入鹿の山背大兄王追討軍に加わる。

..... 644=48歳 : 脚病で出仕しなかった時、好感をもち接近した中臣連鎌足を厚遇し、寵妃阿倍氏(小足媛か)に仕えさせたところ、鎌足が感激して天皇にふさわしい人物と舎人に語ったのを伝聞して大いに喜んだという。
乙巳の変・・ 645=49歳 : *皇極の皇子中大兄皇子(のちの天智天皇)や鎌足らが入鹿らの蘇我氏本宗家を倒し、改新政治が発足した際、即位をしきりに固辞したが、結局うける。先帝に皇祖母尊の称号を献じ、皇太子の地位について中大兄皇子の同母妹間人皇女を皇后に立て、内麻呂を左大臣、倉山田石川麻呂を右大臣とし、鎌足を内臣に任ずるなど改新政府の陣容を整え、年号を定めて大化とし、都を飛鳥から難波の長柄豊碕に移した。

..... 650=54歳 :

..... 652=56歳 : 孝徳朝十年間に、版図は拡大し、官制も整い、

難波長柄豊碕宮も完成して、改新政治は一応軌道に乗るが、国政は皇太子の領導するところであったため、両者はしだいに不和となり、やがて決定的な対立となって、

第2回遣唐使 653=57歳 : *皇太子は大和への遷都を奉請し、孝徳が裁可しなかったにもかかわらず、皇祖母尊・間人皇后・同母弟大海人皇子(のちの天武天皇)以下、公卿大夫・百官人を率いて大和の飛鳥の河辺行宮に移ってしまう。愛した皇后にまで去られ、深刻な衝撃をうけ、これを恨んで退位も考え、山碕に宮の造営を始めが、完成しないうちに病気になるらしい。

中臣鎌足紫冠 654=58歳 : *孝徳危篤の報に、皇祖母尊らを従えて長柄豊碕宮に赴いてきた皇太子ら、自分に背を向けた近親・臣僚らの警固のうちに崩じ、大阪の磯長陵に葬られた。
温和な人柄で儒学を好み、貴賤を問わず、しきりに恩勅を下したといわれる。